



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

三位一体の主日 C年 (2022年6月12日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：箴言 8章 22—31節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 5章 1—5節

福音朗読：ヨハネによる福音書 16章 12—15節

神さまの神秘へと近づく

三つの朗読から

第一朗読では冒頭の22節にある「その道を初めにわたしに造られた」にこだわってみましょう。ここをフランシスコ会訳で読んでみますと「主は、その働きの初穂として、その業の初めに、わたしを造られた」となっています。ですから、知恵は天地創造の前からあったのでしょうか。新改訳聖書改訂第3版はその点がはっきりとしています。【主】は、その働きを始める前から、そのみわざの初めから、わたしを得ておられた。新共同訳、フランシスコ会訳で「造られた」、新改訳で「得ておられた」はヘブライ語ではカーナーだそうです。本来は「買う、手に入れる」という意味で、「創造する」という意味では4回だけ使われているそうです。このことばは日本語の翻訳が少し難しいかもしれません。昔のカトリック教会の聖書であるバルバロ訳では「有しておられた」と、「造られた」という表現を避けて、知恵が造られたものでないことを伝えようとしています。

第二朗読はパウロの『ローマの信徒への手紙』から読まれます。冒頭のことば「義とされる」に注目してください。「義とする」とは法律的概念で「公平に扱う、正しく裁く」の意味ですが、パウロは受動態で用いて、人が「無罪とされる、神からの賜物である義を受ける」の意味で使っています。また「信仰」は律法と反対の意味を持ち、自分で努力して到達したり、得られるものではありません。さらに人から賞賛される「信心深さ」ではありません。「信仰」とは神が人間に差し出してくれた救いを受け入れることです。こうして神によって「義とされる」のです。

今日の福音朗読は、受難を前にしたイエスさまが弟子たちに語った箇所となります。いわゆる「告別説教」の一部分です。聖霊の果たす役割が明らかになります。

告別説教でイエスさまは自分が父のもとへと戻ること、弟子たちが守るべき互いに愛しあいなさいと

いう掟、そして残された弟子たちがこの世から迫害を受けるだろうということを伝えています。しかし、いよいよイエスさまのことばが終わりに近づき、言っておきたいことはたくさんあるが、弟子たちは理解できないとイエスは語ります。今日の朗読の冒頭です(12節)。フランシスコ会訳では「今、あなた方はそれに耐えることができない」となっています。

この箇所には二つの理解の可能性があるのでしょ。まず、聞いて理解するに耐えられないという意味で捉えることができます。そして、イエスさまが語ることばが、やがて引き起こる迫害では弟子たちは担いきれない、耐えられないとも理解することができます。弟子たちはイエスさまの語ることばが理解できてますが、しかし、厳しい迫害の渦中では、イエスさまのことばを支えにして、担うことができないだろうという意味です。どちらの意味も含んでいて、弟子たちはイエスさまのことばの意味が充分に理解できないし、同時にイエスさまのことばを保ち続け、それを伝えるだけの勇気もないのです。

だからこそ、イエスさまは真理の霊である聖霊を弟子たちに派遣することを約束したのでしょう。13節にある「導いて」の「導く」はホデーゲオーだそうですが、道案内人のホデーゴスから派生した単語だそうです。文字どおりには「道案内する、導く」ですが、そこから展開して「指導する、手ほどきして教える」の意味も生じるそうです。ここでは真理の霊が弟子たちを導けるのは、御父と御子から聞いたことを語り、手ほどきして教えてくれるからです。

説教

三位一体の教えが成立する歴史的な経緯はともかくとして、三位一体の教えは神さまから教会に示された(啓示された)教えです。復活なされたイエスさまとの出会いの事実、そのイエスさまによって救われたという実感、だから、復活なされたイエスさまは救い主キリストであるという確信という一連の体験は、古代の教会の人々にとっても、現代を生きるわたしたちにとっても信仰の中心をなすものです。救い主イエス・キリストについての理解を深めようとすればするほど、この方がどこからいらした方で、どういった方で、どこへと向かわれて、今なにをなさっているのかが気になります。つまり、キリストへの探究心が目覚めます。聖書(旧約聖書も新約聖書も)を丹念に読んで、しかも、生前のイエスさまのことばを、今、ここに語られている生きたことばとして耳を傾けてみると、イエスさまが天の御父の「ひとり子」であることに気づきますし、天の御父と「ひとり子」である御子はいつも聖霊を送ってくださいわたしを助けてくださることに気づきます。つまり、三位一体の教えとは、わたしたちが抱く神さまへの信頼、イエスさまとの親しい交わり、そして生きていこうとするいのちへの躍動を土台として生まれ、しかも古代の教会の中で洗練されていった教えなのです。

そして、この教えは神秘の一端を伝えるものです。ですから、理解できなくても心配ないのです。むしろ、神は父と子と聖霊の三位にして、同時に一体なのだからここに留めておくことが大切だとわたしは思います。